

『 自分を大事に 人を大事に 稲葉を大事に 』

藤枝市立稲葉小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	「なかま作り」ステージ 縦割り班スタート 1年生ようこそ の会 道徳：ふわふわことば 毎月25日 にこにこあいさつ運動 くすのきタイム①（異学年交流）	【学・道】人間関係づくりプログラム （出会い 仲間づくり）	【職員会議】 実態把握 共通理解 年間計画
5月	運動会 くすのき班での対抗戦	【学・道】人間関係づくりプログラム （聴き方）	
6月	「チャレンジ」ステージ 授業でピア・サポート 授業像 「自分を大事に 人を大事にした話し方・聴き方」 くすのきタイム② くすのきそうじ・読書① 地域の方との交流会①（1・2年） 友愛訪問①（5・6年）	心のアンケート①	
7月	くすのきタイム③ グリーンヒルズ交流①（3・4年）		
8月			【夏季研修】 SC研修
9月	自然教室（5年） いなせ交流（9～12月）	【学・道】人間関係づくりプログラム （話し方 聴き方） 学校生活アンケート	
10月	「じまん作り」ステージ 友愛訪問②（5・6年） くすのきタイム④ 中学校区小学校交流会（6年）	【学・道】人間関係づくりプログラム （自分の気持ちへの対処・対応）	市研修会の伝達
11月	くすのきタイム⑤ くすのきそうじ・読書② 修学旅行（6年） 地域の方との交流会②（1・2年）		
12月	学習発表会 くすのきタイム⑥ 藤中生による読み聞かせ&交流会		
1月	「ありがとう」ステージ くすのきタイム⑦ グリーンヒルズ交流②（3・4年） 校内や地域の方に感謝する活動～3月	心のアンケート②	
2月	くすのきタイム⑧ 守り隊への感謝の会 6年生ありがとうの会		【教育課程編成】 年間のまとめ
3月	サンキューマイク活動 卒業式・修了式		

## 1 本校のピア・サポート

本校は小規模校の特徴を活かし、異学年間交流を積極的に行っている。様々な交流活動を計画し、実践していく中で、高学年が低学年に優しく接する姿や、低学年が高学年に憧れの思いを持つ場として位置づけられている。縦割り班で活動していくことにより、子供たちが自ら課題を見つけ、解決していく経験をする中で、自分たちの学校がよりよくなっていくことを実感できるようにしている。活動中、具体的に「ピア・サポート」という言葉は発しないが、活動後に振り返りを行うことで子供同士のあたたかい行動を認め合う時間を大切にしている。

## 2 本年度の取組

### (1) 授業において

本校では「自分ごととして学ぶ稲葉の子」を研修テーマに掲げて実践に取り組んでいる。授業で子供たちが自分たちで課題を見つけ、主体的に学ぶために、教師側はいかに意欲を引き出し、協働的な学びになるか、日々教材研究をしている。

例えば、3年生理科の「音のふしぎ」の単元では、身近な音に興味を持たせ、その中から出てきた疑問についてみんなで考えていく時間を意図的に多く設定した。子供から出た疑問からこれまでの経験や既習事項をもとに考えを作り出し、少人数の友達と活動したり、全体で共有したりするなど様々な子と関わりながら学びを深めてきた。

また、校内では話し方・聴き方に重点をおき、話し手は相手にわかってもらえるように話すこと、聴き手は相手が何を伝えたいかを理解するために真剣に聴くことを意識できるように取り組んできた。お互いが相手意識を持つことで、言葉を選んだり、自然に相槌をうったり、友達の考えに繋げて発言をしたりする姿がどこの学級でも見られている。

### (2) 特徴的な活動

#### ①くすのき活動 《提言 4.5.6》

本校では異学年間交流として縦割り班で活動するくすのき活動を年間を通して行っている。毎回子供たちが楽しみにしているのがくすのきタイムである。各班の遊びの計画や進行、振り返りを高学年だけでなく各学年に任せて回数を重ねた。班の友達がどうしたら楽しんでもくれるかを考えながら計画を立て、低学年は高学年のサポートをもらいながら遊びの内容ややり方を伝え、振り返りの時間では計画を立ててくれた学年に感謝の気持ちを伝えあっている。様々な場面で自信をもてる機会としてよい効果をもたらしている。

また、運動会も縦割り班で活動している。応援席や整列を班ごとにするすることで、6年生のリーダーが班のメンバーをまとめようとしたり、声を掛けたりする姿が見られた。応援席では、低学年も高学年の応援団に倣って一緒に応援し、場を盛り上げていた。くすのき班対抗で玉入れ種目も実施している。班で協力してたくさん玉を入れることができるように、班でお互いアドバイスを言い合ったり、高学年が拾った玉を低学年に渡したりして投げている。

#### ②各学年のあいさつ運動とあいさつボランティア 《提言 1.5.6》

児童会の取り組みとして、朝の校門でのあいさつ活動を行った。これまでは児童会の子供のみであいさつをしていたが、あいさつする側の気持ちもわかってもらいたいという思いなどから、各学年で登校したら校門に行き、あいさつをしようという取り組みを行った。今まではされる側だった多数の子供たちが、する側になって初めて気づく思いがあり、自然とあいさつすることのよさに繋がっていった。全学年終了後はボランティアを募り、放送であいさつ名人を伝えていることもよい刺激になっている。

## 3 本年度の成果と来年度に向けて

くすのき活動は、稲葉小の伝統であり、大切に守っていききたい行事である。子供たちは学級だけでなく学校中の友達と関わり、支え合って過ごしている。泣いたり笑ったり怒ったり、人間として大事な感情を感じ、相手との関わり方を発達段階に合わせて身に付けながら成長してきている。今後も子供に合った場を教師側で設定し、自主的・主体的な活動を促していきたい。